

資料1 観光資源・課題のまとめ(前回会議の結果)

資料 1

(1)観光資源

区分	代表資源	主な価値	主な課題／論点
① 核となる資源	● 美幌峠 ● 屈斜路カルデラトレイル	・願望・自然体験の強み ・来訪動機を中心	交通網、安全対策、アピール、通年化、二次交通の不足 道東の観光との連携、農業・林業との複合
② 回遊拠点	● みどりの村(博物館、KITEN) ● 市街地(駅周辺)	・情報、休憩、体験の入口 ・滞在の受け皿	役割分担(案内・商品販売)、街中拠点の不足、 駐車場等、みどりの村周辺一体の滞在コンテンツ化 トレイル部会との協力
③ 温泉	● 峠の湯びほろ	・滞在価値を高める基盤	周辺体験との連携 食事場所や体験場所の紹介体制
④ 食・一次産業	● サッシー・玉ねぎ アスパラ等の特産品	・美幌らしさ(食)の核になり得る	ご当地グルメ開発、提供機会(峠・街中)の拡充 特産品・ブランド力の強化
⑤ 文化	● 工芸、歴史・文化	・差別化・多様性対応	発信素材化、体験化(学びのプログラム) 峠や食等と組み合わせたコンテンツ
⑥ 学び	● 教育旅行(農村ツーリズム)	・地域理解の促進	受入体制、他コンテンツとの連携
⑦ イベント・交流	● 美幌観光和牛まつり等	・宿泊増・交流機会の創出	運営体制の維持 パンフレットの細分化(食・体験・買い物など)
⑧ アクセス	● 女満別空港・広域動線	・来訪入口 ・広域周遊の基盤	空港－美幌－峠の二次交通(路線・予約型等)具体化 ターゲット層の確認、ガイド付きツアーなどの検討

資料1 観光資源・観光課題のまとめ(前回会議の結果)

(2) 美幌町観光の課題

① 二次交通・アクセス

現状	女満別空港に近接する立地優位性を十分活かしていない
	美幌峠・町中・周辺観光地を結ぶ移動手段が弱い
	タクシー依存度が高く、実質的に利用しづらい価格帯
	バス路線は運転手不足・財源不足により維持拡大が困難
	過去の路線バス・デマンド交通は需要不足で廃止



課題	路線バス以外(デマンド・送迎・ツアー型等)の検討
	どの利用者を優先するか未整理
	空港～町～峠～弟子屈を含む広域交通設計不足
	冬季・インバウンド・交通弱者への対応不足
	運行主体・財源・制度設計の不明確さ

② 美幌峠からの観光ルート

現状	美幌峠には観光客が来訪している
	しかし町中へ立ち寄らず通過するケースが多い
	キャンピングカー増加への対応不足
	町中消費・滞在時間につなげていない
	峠で「町に何かがあるか」が伝わっていない



課題	峠から町への導線不足
	町中での観光目的・滞在理由不足「町で過ごす理由」の創出
	食・体験・温泉・散策などとの接続
	回遊ルート設計不足
	峠現地での情報発信強化

③ 食・地域資源活用

現状	農産物等の素材力は高い
	一方で観光商品化には課題がある
	「美幌といえば〇〇」が定着していない
	地元の日常食との差別化が難しい



課題	地元食材活用のコスト・季節制約が大きい
	地元家庭料理との差別化が難しい
	原価・人件費負担が大きい
	「朝の農村風景」など滞在型価値の発掘
	既存資源の磨き上げ

④ 滞在型観光コンテンツ

現状	峠以外の観光導線が弱い
	美幌峠駐車場の混雑・使い勝手に課題
	キャンピングカー増加への対応不足
	滞在時間・消費額が伸びにくい
	緑の村・博物館・工芸・建築等が十分認知されていない



課題	観光バス動線の非効率
	駐車レイアウト老朽化
	道有地利用による調整の複雑さ
	将来需要への対応不足
	夜間・雨天・長期滞在向けコンテンツが不足

⑤ 情報発信・マーケティング

現状	各団体・事業者が個別に発信
	観光データの集約不足
	観光客視点の情報整理不足
	パンフレット中心で導線が弱い
	優先順位設定の困難さ



課題	地元食材活用のコスト・季節制約が大きい
	地元家庭料理との差別化が難しい
	原価・人件費負担が大きい
	「朝の農村風景」など滞在型価値の発掘
	既存資源の磨き上げ
	観光マーケティング機能の整備

⑥ 推進体制・実行組織

現状	旧観光まちづくり協議会解散後、共有体制が弱体化
	計画実行主体が不明確
	事業間連携・役割分担が不明瞭
	横断的調整機能不足
	観光マネジメント人材不足



課題	人・組織の再構築
	観光まちづくり協議会に変わるような組織が必要
	マネージャー的人材の投与